

7. エボラウイルス病

Ebola virus disease

国立感染症研究所ウイルス第1部

中山 絵里・西條 政幸

Eri Nakayama

Masayuki Saijo

(部長)

Key Words エボラウイルス, ウイルス性出血熱, 西アフリカ, 院内感染

はじめに

西アフリカにおけるエボラウイルス病 (Ebola virus disease : EVD) の流行では, WHO の発表によると 2015 年 5 月 31 日現在, 感染者は 27,181 人, 死者は 11,162 人に上っている (図 1)¹⁾。エボラウイルスの自然宿主と考えられるコウモリや感染した霊長類がヒトへの感染源となる (図 2)。アフリカ流行地ではヒト-ヒト感染によって流行が広がり, その致死率は 30 ~ 90% に上る。ここでは, EVD の臨床症状, 治療薬・ワクチン開発, 院内感染防止対策について解説する。

臨床症状・治療

これまで EVD 患者では, 多くの場合発熱などの感染症状に加えて出血症状をとまなうとされてきた。しかし, 西アフリカにおける流行では, 発熱,

衰弱, 頭痛, 下痢, 嘔吐が多くの患者でみられ, 吐血, 下血, 消化管出血は重症例で観察され, 出血症状がともなわない患者も多くいることが明らかになった。また, 米国疾病予防管理センターによると, 多くの例で感染後 8 ~ 12 日目に発熱, 寒気, 筋肉痛, 倦怠感などの症状が出現し, 続いて発症 5 日目頃に水様性下痢, 吐気, 嘔吐, 腹痛などの消化器症状が出現する²⁾。出血症状 (点状・斑状出血, 静脈穿刺部位からの出血, 鼻, 歯肉, 消化管粘膜からの出血など) が 18% の患者で観

察される。つまり約 80% の患者で出血症状はともなっていない。皮膚症状として, 頸部, 体幹部, 腕部に丘疹性紅斑が現れることがある。今回の流行では, 発熱が 87% の患者でみられ, 続いて倦怠感, 嘔吐, 下痢, 食欲減退がそれぞれ 76%, 68%, 66%, 65% の患者で観察された。死亡患者では, 発症初期から重篤な症状がみられ, 多臓器不全やショックで 6 ~ 16 日で死亡する。重症患者の特徴は, 重度の嘔吐・下痢による脱水, 衰弱, 腹痛, 意識障害, 消化管出血がみられることで

◆メモランダム◆

エボラウイルス病 (Ebola virus disease : EVD) は 2000 年以降ほぼ毎年のようにアフリカで流行が確認されてきた (表 3)。エボラウイルスにはザイール, スーダン, ブンディブギョ, タイフォレスト, レストンの 5 種類が存在する。これまでにサハラ砂漠以南のアフリカ諸国ではザイール, スーダン, ブンディブギョエボラウイルスによる EVD が流行してきた。タイフォレストエボラウイルスは 1994 年, コートジボワールの国立公園で死亡していたチンパンジーを解剖した獣医師 (発熱性疾患を発症) から分離された¹⁶⁾。レストンエボラウイルスはフィリピンのカニクイザルや養豚場で飼育されていた豚から分離されたウイルスである¹⁷⁾。タイフォレストエボラウイルスが分離された 1994 年を除いて, 西アフリカで EVD が流行したことはなかった。

Surgery Frontier 22(3) : 44-49, 2015